

第44回 全国救護施設研究協議大会 分科会
【テーマ1】「ウィズコロナ時代の救護施設の取り組み」

利用者の権利擁護と コロナゼロは ONE TEAM

～利用者が職員とともに、権利擁護を推進する～

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
救護施設 昭島荘
生活指導員 田尾 恵利佳



事業所プロフィール

所在地：東京都昭島市中神町1260

開設：昭和32年12月

定員：100名（男性52名・女性48名）

居室：4人部屋

事業：一時入所事業定員：3名

居宅生活訓練定員：2名（自主事業）

職員数：50名

建物構：鉄筋コンクリート2階建（一部3階建）

施設数：当法人で30施設

高齢者・障害者・保育・社会的養護

病院・印刷局・他

当法人：1日の利用者約3,000名・職員約1,600名

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

利用者プロフィール

平均年齢：66.7歳（令和4年8月1日 現在）

平均在園：12年7ヶ月（ 同上 ）

作業内容：外注の製袋作業（園内外）・アルミ缶回収

作業時間：園外・園内 09時30分～16時00分（平日）
アルミ缶 10時00分～11時00分（平日）

作業参加：園 外 19名
園 内 24名
アルミ缶 7名

平均工賃：園外・園内 2.533円（直近3ヶ月）
アルミ缶 946円（直近3ヶ月）

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

事業所サービス紹介

昭島荘は「一人ひとりの現在を支援する施設」を理念としてすべての利用者が人生における主人公であり、ともに集い交わりながら新たな価値観を見つけ、自分の存在を実感できる場所を目指します。

- ミッション：社会の要請と多様性に応える
- ビジョン：地域共生社会のイノベーション
- バリュー：発言と行動に責任を持つ人材育成

頑張って流した汗、感動して流した涙
色々な人々が集い、交わり、新たな色、新たな価値観が生まれる場所。
そんな場所になれるようデザインに込めました。VOL.2 (2022年5月)

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

取り組み状況

- (1) 第53回 関東地区救護施設研究協議会（2019）で「救護施設の見える化」を意見発表し、現在も継続して取り組んでいる。
- (2) 苦情解決制度が適切に機能して、支援の質の向上に繋がるように、スピード解決を手順化して利用者へ周知している。

コロナ禍で直面した問題

- (1) コロナ禍が長期化する中、利用者に我慢を強いるだけでなく、利用者の意向を尊重した施設生活の楽しみ、潤いを提供する具体的な取り組みは何か。
- (2) 「利用者権利擁護」「生活困窮者支援」「人材育成」について、いかに実践すれば良いかの課題が浮上した。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

今年度の取り組みのねらい

- (1) 利用者自身が「希望」「生きがい」「権利擁護」を改めて問い直す。
- (2) 安心・安全な「余暇活動」を利用者ととともに考える。
- (3) 職員の人材育成と人材確保の門戸を拡大する。

期待する効果

- (1) 利用者が地域生活移行をする際の自信に繋がる。
- (2) 教育機関への広報活動は、福祉業界の発展及び職員の資質向上となる。
- (3) 潜在的な生活困窮者の把握と支援が可能となる。

救護施設

昭島荘

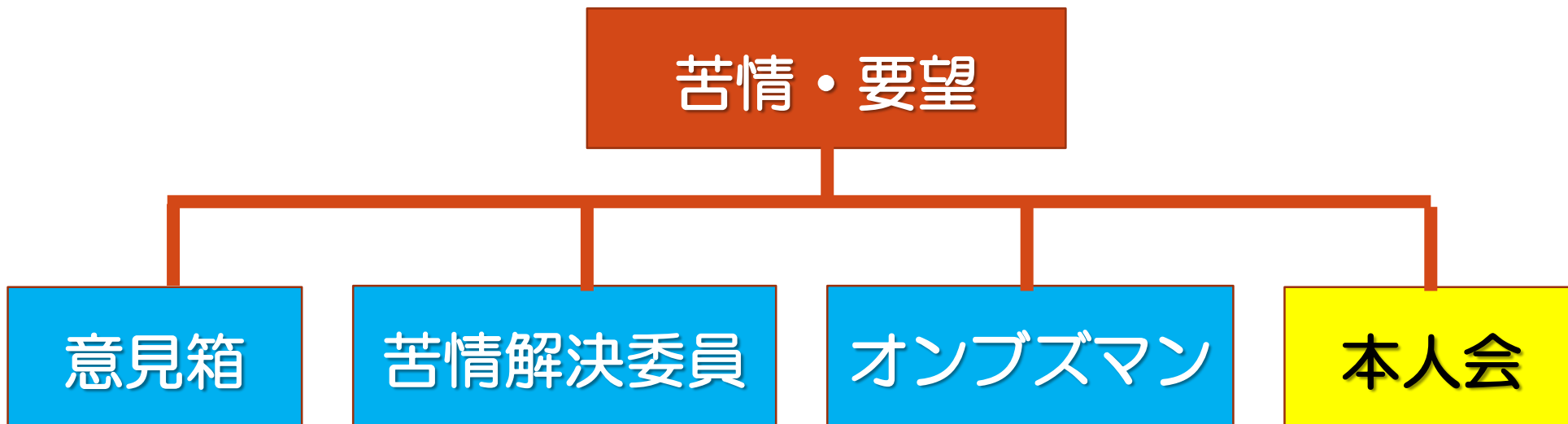


Supporting each person's present

具体的な取り組み内容

1 利用者の権利擁護

- (1) 令和4年度より「苦情解決委員会」を「権利擁護委員会」に名称変更、利用者自身の考え・意見・要望が発信できる「本人会」を設置した。本人会は現在7名であり、参加し易い工夫が必要である。
- (2) 利用者と職員が、ONE TEAMで「より良い施設づくり」の参加を目的とした。



「本人会」意見と解決策

(3) 利用者の意見

- コロナ感染予防のため買い物は平日のみ、作業参加の利用者は作業を休んで買い物に行く ⇒ 作業を休んだ分だけ工賃が減る。
- 利用者自身が作業を休むことに、マイナスのイメージを持っている。

(4) 年次有給休暇制度の導入

- 付与日数：月1日、年間12日間とする。（時間休取得も可能）
- 条件：買い物・体調不良・リフレッシュ休暇など
- 申請方法：受注作業の納期があるため、前週迄の事前申請とする。
- 導入効果：地域生活移行などで就労した際、効果的な有給休暇の取得により、生活の潤い・ゆとり・感染リスクの回避などに繋がる。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

具体的な取り組み内容

2 目標は利用者のコロナゼロ

- (1) 利用者のコロナワクチン4回接種者は約90%である。4回目の接種は、東京都の移動ワクチン接種バスを活用した。
- (2) 利用者の行動自粛・マスク着用など感染予防に努めたが、8月15日～8月25日現在、利用者9名・職員5名がコロナ陽性となった。
- (3) 現在、利用者・職員・法人内施設の応援職員が、「ONE TEAM」でコロナ終息に向け奮闘中である。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

具体的な取り組み内容

3 実習生及び人材確保と育成

- (1) 例年、社会福祉士養成実習生は1名程度、令和3年度は実習生4名を受け入れた。
- (2) 救護施設の認知度が低く実習生、求人エントリー者を増やすため大学2校・専門学校3校へ訪問し、広報活動を実施した。
- (3) 広報活動の目的は「救護施設の認知度アップ」、実習生受け入れ目的は「職員の資質向上」と将来的な「人材確保と育成」の3点である。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

具体的な取り組み内容

4 生活困窮者支援

- (1) 救護施設の役割は、施設利用者の支援に留まらず、地域の生活困窮者支援も求められている。現在、その手段を模索中である。
- (2) 昭島市民生児童委員より、救護施設の事業説明依頼があり、本年7月に「説明会」を実施して15名が参加した。
- (3) 生活困窮者支援を実践する手段として、民生児童委員と定期的な懇談会を開催することが有効である。次回は10月を予定している。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

取り組み結果と評価

1 取り組み結果

- (1) 年次有給休暇の付与は、今後、地域生活移行・就労した際の労働意欲に繋がる。
- (2) 昭島荘の施設長が、法務省矯正研修所の高等科研修生へ「利用者の権利擁護」に関するビデオ講義をする予定である。
- (3) 職員ひとり一人が、専門職としての自覚と誇りを持ち、積極的に主体的な業務遂行が可能となる。

※. 上記は昭島荘の

ミッション：社会の要請と多様性に応える

ビジョン：地域共生社会のイノベーション

バリュー：発言と行動に責任を持つ人材育成

に繋がる。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

取り組み結果と評価

2 取り組みの評価

(1) 利用者に対して

- 「本人会」の設置は、今後、様々な場面で利用者の「自主創造」養う機会となった。
- 利用者のコロナ感染により、利用者自身のマスク着用・手洗いなどの感染予防意識が高揚した。

(2) 職員に対して

- 生活困窮者支援は手探り状態であるが、民生児童委員などと連携を深め最終目標は、地域包括ケアシステムの中核施設を目指す。
- 就労支援の一環として、社会的養護施設の利用者・卒業生などを職員採用した。

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present

コロナ禍で実施した行事

移動水族館が到着



移動水族館は、都立葛西臨海水族園が行っており、来園が難しい方の社会福祉施設などを対象に、海の生物を専用トラックで運ぶ出張イベントです。

救護施設

昭島荘

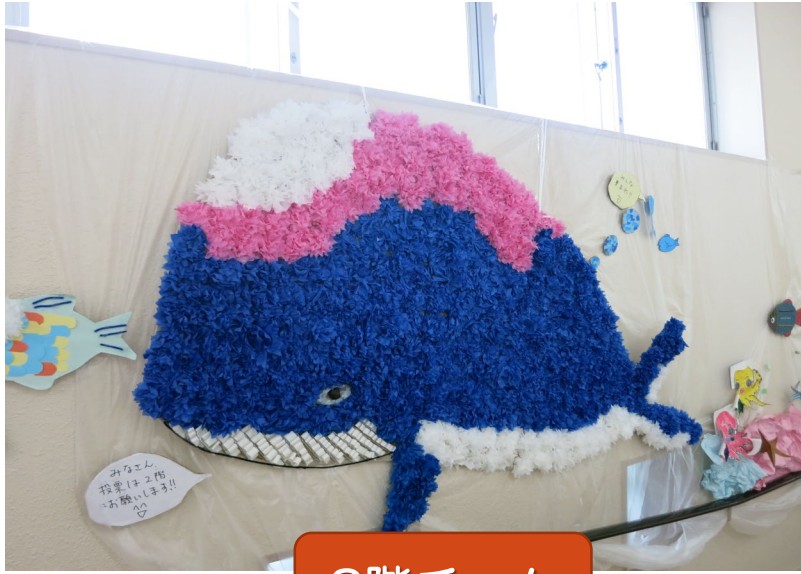


Supporting each person's present

移動水族館の様子



園内水族館の様子



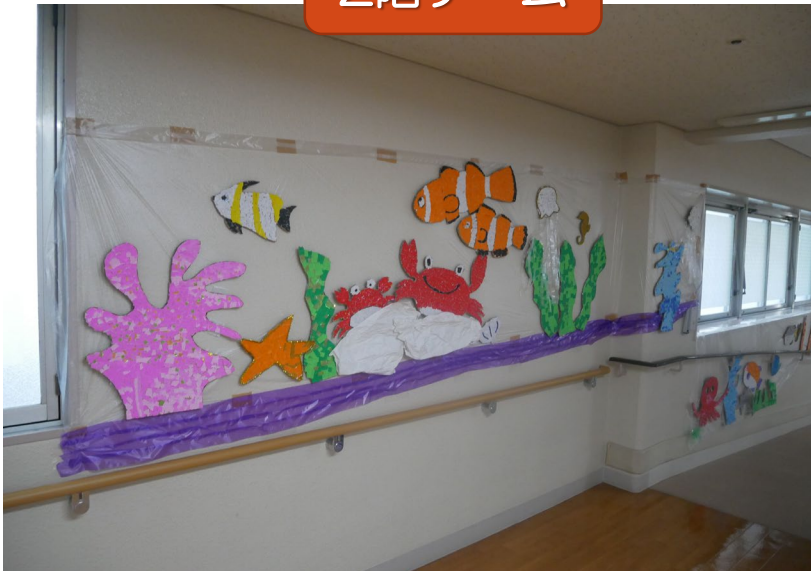
2階チーム



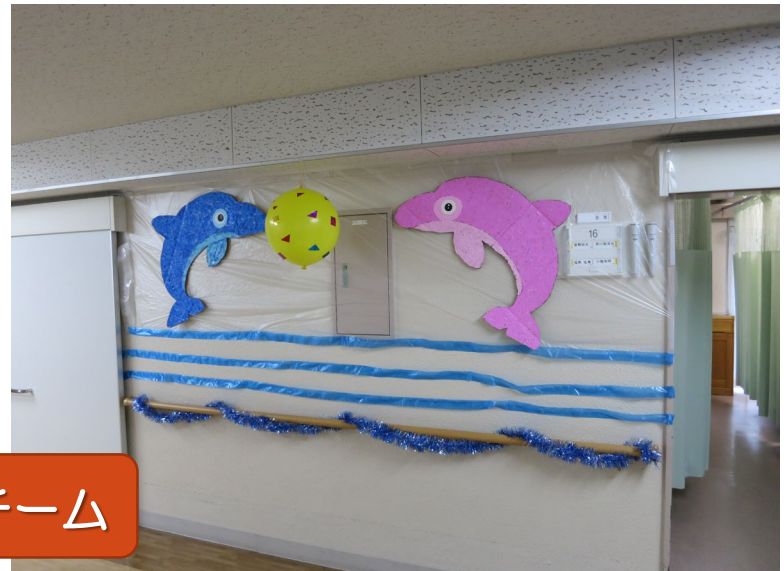
事務所 チーム



診療 チーム



1階チーム



コロナ禍で実施の行事



花火会



イルミネーション



年忘れ会



縁日



コロナ禍で実施の行事



演奏：音引力
施設内イベント



最後に

全国的に救護施設の入所申し込みは男性が70%、昭島荘のミッション「社会の要請と多様性に応える」を実践するため、令和3年11月～令和4年4月の6ヶ月間を費やし、男性48名⇒52名・女性52名⇒48名へ、男女比を変更しました。

利用者の権利擁護と コロナゼロはONE TAEM

ご清聴ありがとうございました。

昭島荘 (生活指導員) 田尾恵利佳

救護施設

昭島荘



Supporting each person's present